学校番号	2002

令和８年度　芸術科

教科	芸術科	科目	硬筆書道	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

個々の書き癖を理解させ、美しく文字を書くために必要な目標を個々に立てさせることで、丁寧で読みやすい文字を書く心情を育てる。
文字の字形だけでなく文字の大きさや配置で印象が変わることを理解させる。授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現(書作の意図・書写技能)と鑑賞を並行して扱い評価については、各単元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう

2　学習の到達目標

【知識 及び 技能】
使用する筆記具の特性を理解し、表現方法を選択することができる。形式書式などを理解して活用できるよう様々な表現技能を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】
文字を美しく見せる要素を理解し、自らの意図に基づいて構想し表現・書作できる。

【学びに向かう人間性等】
文字を美しく書きたいという欲求を持ち。積極的に書作に取り組める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	書が身近なものであることを実感し、書の伝統と文化に関心を持って創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、表現方法を選択し形式書式なども理解し活用できるよう、様々な表現技能を習得している。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、書の創造的活動の喜びを味わい、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさ、書の表現意図について主体的に表現や鑑賞ができる態度を育んでいる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	印象の良い文字の書き方 (楷書の学習)	◆丁寧で読みやすい文字を書く心情を育てる。 ◆紙面・マス目に対しての文字の大きさの学習 ◆ボールペンの用筆法	a：筆記具に応じた持ち方や使用法を身に付け表している。 c：丁寧で読みやすい文字を書こうと意欲的・向上心を持って取り組んでいる。	作品		観察 WS
		「部首別による学習」 ◆部首名の学習 ・部首ごとに結構法を学習する。 ◆旧字体・異体字の知識 ◆紙面・マス目に対しての文字の大きさの学習	a:文字を美しく書くための方法の理解し、文字の大きさ・配置などを理解している。 ｂ：他者の作品と自分の作品とを比較し、共通の長所・短所を模索することで、配置や結構法などバランスとは何かを考えその良さを味わっている。 c:積極的に取り組み、知識・技能の向上に努めている。	作品	作品	WS 作品
		「横書き文章の学習」 ◆横書き文章のまとめ方の学習 ・自分の名前や住所などを中心に履歴書の制作を行なう。				
2学期	縦書き文章の練習	◆はがき・封筒の表書き書式 ◆縦書き文章のまとめ方の学習 ・手紙文を題材に縦書き文章のまとめ方を学習する。 ・時候の挨拶など日本文化としての手紙の書式を学習する。	a：文字を美しく見せるための方法の理解し、文字の大きさ・配置などを工夫している。 b：文字を美しく書くための方法の理解し、文字の大きさ・配置などを工夫し書作している。 c:丁寧で読みやすい文字を書こうと意欲的に取り組もうとしている。	WS 作品	WS 作品	WS 作品
	行書による学習	◆自分の名前の楷書・行書の違いを意識し書く。 ◆前単元の内容を、行書を扱い学習する。	a：楷書・行書の違いを観察し、表現に結びつけその良さを味わっている。 c：新しい書体について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	作品		WS 観察

		◆前項の内容をふまえ筆ペンを使用し年賀状や祝儀袋などの書き方を学習する。	a:筆ペンを、効果的に使用する技能を身に付け表している。 b:行書の特徴をふまえ、文字を美しく書くための方法の理解し、文字の大きさ・配置などを工夫している。 c：新しい技能習得に積極的に取り組んでいる。	WS 作品	WS 作品	観察
3学期	感謝状の作成	◆卒業にあたり、筆ペンを使用し感謝状を作成する。 ◆賞状筆耕の書式・規範に従い制作する事で、文字の大きさ・太さ・ 配置などを工夫し、文書全体のバランス感覚を養う。	a:賞状制作時の規範に従い作成している。 また、筆記具の違いを理解し、太さの違いと文字の大きさに変化をつけ、書作することができる。 b:他者の作品と自分の作品とを比較し、長所・短所を模索することで配置や結構法・配置など、書作に活用できている。 c：感謝の念を込め、丁寧に書作している。	作品	WS 作品	WS 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

評価方法記載欄の「WS」はワークシートとする。